

NPO法人 炭鉱電車保存会

理事長
ふじわら よしひろ
藤原 義弘さん



「NPO法人炭鉱電車保存会」は、荒尾市民の心の原風景である炭鉱電車を保存・普及する活動を行っています。理事長の藤原さんは、高校時代に炭鉱電車に魅了され、その魅力を多くの人に伝えるため、写真集の出版や保存活動に力を注いできました。会員は全国に約80人、子どもから80代までの幅広い年齢層が参加しています。明治時代の産業発展に貢献し、万田坑で重要な役割を果たした炭鉱電車。「線路を敷いてもう一度炭鉱電車を復活させたい」と、藤原さんは「昨年万田坑に寄贈された2両のうち1台をいつでも動けるように提言をするなど、これからも炭鉱電車の魅力を伝えるために精力的に活動を行います。」

炭鉱電車に魅了され
活動の輪を広げてきた



三井三池炭鉱 万田坑ファン倶楽部

会長
じんない とおる
陣内 透さん



価値の伝え手となり
万田坑を次世代へ守り継ぐ

「三井三池炭鉱万田坑ファン倶楽部」は約20年前に設立され、現在は元炭鉱マンを含むガイドと、倶楽部立ち上げに尽力した一般会員の計20人が在籍。主に「万田坑ステーション」でガイドやイベントの協力支援、学校への出前講座などを行い、万田坑の魅力を日々発信しています。会長の陣内さんは倶楽部の活動に加え、年4回新聞を自主発行し、万田坑の歴史的価値を発信しています。「万田坑が世界遺産として認められたことは地域の誇りです。炭鉱電車の寄贈で当時をイメージしやすくなり、観光資源だけでなく教育資源にも活用できるようになりました。実物を観ながら生徒などに貴重な財産があることを伝えていきます」と陣内さんは話します。

「花の癒やしで、まちを明るく」 30年続くボランティア団体

おもやい市民
花壇の会



家族のような仲間と
まちの癒やしを育む

大島浄化センター敷地内にある「おもやい市民花壇バラ園」は、約1900株のバラが咲き誇ります。このバラ園を支えるのは、「おもやい市民花壇の会」のボランティアのみなさん。平成8年の「バラの1株運動」をきっかけに誕生したこのバラ園は、「一時活動休止を余儀なくされるも、バラを守りたい」と再開。週1回の活動には30人近くが参加し、熊本市や長洲町・大牟田市・みやま市からも訪れます。

「おもやい」とは「共同で何かをする・分かち合う」という意味。バラが咲く喜びを来場者と共有することをやりに、消毒や草むしり、剪定・肥料の散布などを行っています。花咲く場所は癒しの場。そんな場所が増えれば心が明るくなり、健康にもつながる。バラ園を「コース」に入れて散策する人の姿も見られ、会員のみなさんはたっぷりの愛情でバラと向き合い、まちに彩りと元気を与えています。



「暮らしたいまちづくり」に向かって
ゼロカーボンシティ

エコパートナー あらお市民会議



▲廃食油回収 あらお環境まつり▶

「エコパートナーあらお市民会議」は市民の環境意識の向上を目指して、約20年前に市役所・企業・各種団体・市民で結成された団体です。環境に配慮した活動を推進し地球温暖化防止に取り組む活動として、市内小学校の協力を得て、各家庭で出される廃食油（天ぷら油）を児童と地域の皆さんに回収してもらい、バイオディーゼル燃料として再生する取り組みをしています。この他、グリーンカーテンづくりやごみ減量化でCO₂削減に取り組んでいます。「あらお環境まつり」では多くの市民が参加し、体験をとおして「ゼロカーボンシティ」に向かって安心して暮らせるまちとなるよう活動を進めています。